

栃木医療センター 広報誌

No.49 2022 April

理念
信頼 貢献 協働



Contents

- 部門紹介（地域医療連携室／総合相談室） … 1・2
- 診療科紹介（整形外科・人工関節センター） … 3・4
- 部門紹介（臨床工学技士室） … 5
- 連携医紹介（おだいら矯正歯科） … 6
- 新型コロナウイルス感染症に対する感染対策／
交通のご案内 … 裏表紙

地域医療連携室のご紹介

地域医療連携室長 足立 太一

コロナウイルス感染患者の流行時期には、連携医療施設からの紹介においても、制限をせざるを得なくなり、連携医の先生方と患者様にはご不便・ご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。

地域医療連携室は、連携室長と佐藤看護師長、事務職、ソーシャルワーカー、看護師の約16名で構成されています。

地域医療連携室は近隣の医療機関との連携を担っています。具体的な業務内容は、近隣医療機関からの紹介患者の各種電話対応を中心に、急患の紹介患者の受診に至るまでの院内外の調整、転院の相談と調整、診療情報の提供と取り寄せ、連携医療施設への訪問によるヒアリング、大型医療機器共同利用の予約業務、連携医セミナーの主催と多岐にわたります。

当院は地域医療支援病院であることから、連携医療施設である診療所・クリニックを中心とした近隣医療機関からの要請に応じて入院診療、精密検査、急患対応を提供することを期待されており、これらの患者様の受診までをいかにスムーズに行い、その後に連携医の先生方に逆紹介をすることに常に重点を置いています。スムーズな受診とコロナウイルス院内感染防止の両立が現在の課題です。連携医療施設の先生方の期待に応えられるよう訪問でのヒアリング活動をしております。これからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



総合相談室のご紹介

地域医療連携係長 佐藤 博子

総合相談室では、当院をご利用されている方、又はご利用を考えている方の医療・介護・福祉等に関するさまざまなご相談に対応させて頂いております。相談の内容により、地域の医療機関、福祉機関、行政等と連携を図り、患者さん・ご家族が安心して治療・療養が受けられるようお手伝いします。

現在、総合相談室には退院支援看護師4名、社会福祉士4名が在籍しております。



宇都宮市医療・介護連携支援ステーション

宇都宮市では、市民のみなさんが医療と介護が必要な状態になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、在宅医療と介護サービスを一体的に提供する体制づくりに取り組んでいます。

当院は宇都宮市から「宇都宮市医療・介護連携支援ステーション」の委託を受け、医療・介護連携の際に必要な情報の提供や医療・介護従者の顔の見える関係づくりに向けた研修会の開催などを通して、地域の医療・介護連携をサポートしています。

医療・介護従事者のみなさまからの医療・介護に関するご相談をお受けしています。

総合相談室

月～金（祝日、年末年始を除く）8：30～17：00

電話：028-622-5241（病院代表）

診療科

紹介

整形外科・人工関節センター

整形外科・リハビリテーション科医長 内田 勲

整形外科、人工関節センターの紹介

整形外科（Orthopedics）という言葉の由来は、1741年にパリ大学学長Nicolas Andryが教科書として出版したL'Ortho-pédie（小児の整形術）という教科書の名前から来ています。この言葉はギリシャ語の「正す、矯正する」という意味のorthosと「小児」を意味するpaidionの合成言葉です。その名の通り、当初の取扱分野は小児

疾患中心でしたが、時代の変化とともに扱う分野は肥大化、現在は骨折治療を始め、脊椎治療、骨粗鬆症のような代謝の治療まで幅広く扱っております。一言で言うなら、骨、関節、筋肉といった「運動器の治療」を担当する、という診療科です。

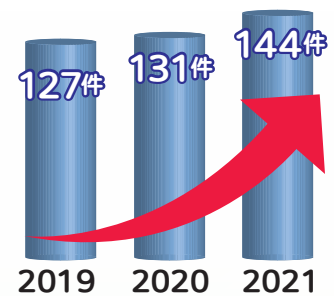
現代の日本では小児疾患であるポリオや結核後遺症は激減し、高齢化による骨量の低下に起因する骨折や、脊柱や関節の変性疾患が増加しています。当院でもその治療が中心になってきています。専門医含め6名の整形外科医が常勤し、骨折治療・手の治療・脊椎の治療などを含めた手術件数は年間900件を超えており、県内有数の施設です。骨折治療は骨折してから可能な限り早いほうが良い治療成績を得られるため、当科では麻酔科、手術室、病棟と連携を取り、可能なら翌日、遅くても1週間以内の早い入院手術を実現しています。また長期の入院が必要な場合はソーシャルワーカーと連携し、リハビリテーション病院などの後方病院への転院の調整も行っております。



翌日から歩行開始、退院まで5~15日程度

▲THA入院フローチャートの一例

当院における人工関節手術数は増加傾向



▲THA術前のコンピュータシミュレーション



▲THAの一例



▲THAで使用するインプラントの一例



◀TKAで使用するインプラントの一例

最近では整形外科の手術の中でも股関節（THA：人工股関節置換術）、膝関節（TKA：人工膝関節術）を始めとした人工関節の成績が大きく向上しており、**当院では通常の診療のほか、「人工関節センター」を設立し、ここ数年で大きく手術件数を伸ばしております。**

股関節に関しましては、1938年にWilesが世界初の人工股関節を完成させた後、1968年に日本に初導入され、その後目覚ましい進化を遂げています。2010年には「術後20年における股関節インプラント生存率が90%以上」という報告も出ています。インプラントの生存率が上がっていることから、従来は手術をせず経過を見られていた症例を、患者さんのQOL（Quality of Life：生活の質）を重視し、早期手術を行う方針に変わってきているところもあります。

このように世界的に良い成績を残していますが、従来の手術法である後方アプローチではどうしても脱臼ポジションの制限（鳶座り禁止）がありました。**特に日本伝統の琴やお花やお茶などで正座を行う方や、しゃがみ仕事が多い農業関係者には不便な面もありました。**

このような状況を改善するため、世界的に様々なアプローチが報告されています。当院では術後も術前と同じような活動が早期にできるように**AMISアプローチを採用しています。**フランスで生まれたこのアプローチの最大のメリットは、**特殊な台を使用し、前方から最小侵襲で筋肉を傷つけることなく手術ができる**ことです。創部も7-10cmと小さく、個々の症例にもよりますが、手術翌日から歩行を開始、5-10日前後で自力歩行して退院できるのが特徴です。筋肉損傷が少ないことから疼痛も少なく、麻酔から目覚めた患者さんに「本当に手術したの？」と驚かれることもあります。このことを裏付けるようにBremerらは2011年に「AMISは従来アプローチに比べて筋肉損傷が少ない」ことを発表しております。つまり「**痛み**」「**リハビリ期間**」「**手術後の制限**」が**少なくなる**方法になります。股関節に関しては手術後のスポーツも（種目は限定されますが）、奨励しています。実際にTHAを受け、現場に復帰したプロゴルファーやプロテニスプレイヤーも存在します。

また人工関節センターでは膝関節の治療も行っていますので、ぜひご相談ください。膝も可能な限り小さいアプローチで、手術後の疼痛が少ないようにパスを組んでおります。

股関節、膝の人工関節に関してはいずれも短期、長期成績がよいものとなっています。**現在使用されているものは、技術や素材の進歩により、30年以上の耐久性が見込まれております。**またいずれも術前のコンピューターによるテンプレートを行っており、より個々の症例にあったインプラントを選択できるようにしています。

もちろん何でもかんでも手術ということではなく、**ご年齢や生活スタイルを総合的に判断し、手術もしくは運動療法を始めとした保存療法のご提案をさせていただきます。**病状については患者さんご自身での評価・ご判断が難しいことが多々ありますので、お悩み事がございましたら、是非一度外来までご相談にいらしてください。

整形外科担当医表（○：診療科責任者）

2022年4月1日現在

	初診・再診	月	火	水	木	金
午前	初診	○吉田 宏樹 原田林太郎	松本 雄暉	内田 勲	立山 宏一	渡邊 啓太
	再診	渡邊 啓太	立山 宏一	原田林太郎	○吉田 宏樹	内田 勲 松本 雄暉

備考 ※人工関節希望は水、金曜の内田の外来まで

臨床工学技士室のご紹介

主任臨床工学技士 越智 祥二

臨床工学技士とは、医師の指示の下、生命維持管理装置の操作及び保守点検を行う事を業とする医療機器の専門医療職種です。今後も増大する医療機器の安全確保と有効性維持の担い手として医療に貢献する事が期待されています。

当院には3名の臨床工学技士が勤務しており、以下のような業務に従事しています。

1) 医療機器管理業務

輸液ポンプ、シリンジポンプ、人工呼吸器、除細動器など診療科を問わず幅広く使用する機器を中心に貸出返却、使用後や定期的な点検整備を行っています。医療機器管理データベースを用いて、一元的に管理しています。

2) 心・血管カテーテル業務

心臓カテーテル検査・治療に必要なポリグラフシステムを操作し、バイタルサインをモニタリングしたり、圧の解析などを行っています。血管内超音波装置、補助循環装置、体外式ペースメーカー、ロータブレータなど主に治療で使用する様々な機器の操作や保守管理を行っています。

3) 血液浄化関連業務

血液浄化用装置と個人用透析装置が各1台あり、エンドトキシン吸着、持続的血液濾過透析、白血球除去療法、単純血漿交換、緊急透析などを行っています。また、入院中の維持透析患者さまへの一時的な透析治療にも対応しています。

4) 人工呼吸器関連業務

新生児用から成人用まで6機種23台の人工呼吸器があり、使用中のチェックやモード選択等の相談、設定についての進言、使用後の点検整備等を行っています。また、人工呼吸器装着患者の院内・院外搬送も積極的に協力し、医師と共に救急車へ同乗しています。

5) 手術室業務

セルセーバによる回収式自己血輸血や脳神経外科手術でのナビゲーション、整形外科や脳神経外科での脳・脊椎手術での術中神経モニタリングなど手術中に使用される機器の操作なども行っています。

6) 教育研修業務

輸液ポンプやシリンジポンプの操作説明や医療ガスの安全使用の為に研修などは新採用者オリエンテーションで行っていますが、人工呼吸器やその他の機器の勉強会は、各部署に出向いて実施し各部署のニーズに合った効率的研修を行うよう心がけています。

現在の医療においては、それぞれの立場で何らかの医療機器を使用しています。在宅においても使用される医療機器が更に増えると予想されます。我々は、工学系の知識を有する医療専門職として、機器の安全で効率的な運用を目指します。また、医療機器を通して組織横断的に活動し医療従事者間、医療従事者と患者間の良好なコミュニケーションを手助けし、チーム医療に貢献していきたいと考えています。



▲使用後や定期的な点検整備を行い、データベースを用いて、一元的に管理しています

おだいら矯正歯科

院長 小平 安彦

おだいら矯正歯科は2003年10月に矯正歯科専門の歯科医院として、宝木町新里街道沿いに開設致しました。開設当初は私を含め3名のスタッフでしたが、18年経過した現在は歯科医師4名、歯科衛生士5名、歯科助手1名、歯科技工士2名、受付4名の計16名の常勤スタッフがワンチームとなって日々診療に取り組んでおります。

当院の最大の特徴としては、まず子供の治療室と大人の治療室が分かれていることです。

大人と子供の体が違うように大人の歯並びと子供の歯並びは違います。また実際に行う矯正歯科治療も診断や治療方法、治療へのアプローチの仕方、使用する矯正装置など多くの相違点があるからです。そして矯正歯科治療はそれを受ける患者さんのニーズも違います。大人の患者さんはプライバシーを重視されるため、できるだけ他の患者さんに会わないよう完全な個室で治療し、子供の患者さんは逆に治療への不安が少しでも和らぐよう、周りが見渡せてワイワイした雰囲気の中で治療を行っています。

またさらなる特徴としては、開院前に勤務していた都内の矯正歯科医院が歯の裏側から治療し装置が見えにくい舌側矯正専門の医院だったこともあり、舌側矯正を得意としていることです。表側に付けるマルチブラケット装置と仕上げりや治療期間が変わらないため、大人の患者さんの約6割は舌側矯正で治療をされております。

当院は地元栃木県をこよなく愛しており、この地域に密着した医院を目指しております。そのためプロスポーツチームの栃木SCや日光アイスバックス、そして宇都宮花火大会の公式スポンサーになっております。地元のチームやイベントを応援できるのはとても嬉しいことですし、我々を育ててくれた地域に少しでも恩返しできればと考えております。地元で根ざした医院を目指してきた現在、患者さんの多くは当院で治療された患者さんや、一般歯科の先生など地元の多くの方々からのご紹介でいらっしゃっております。

矯正歯科治療は親知らず、過剰歯の抜歯や埋伏歯の開窓牽引など、歯科口腔外科との連携が必要な治療が多々あります。栃木医療センターの先生方にはその都度大変お世話になっております。先生方をとても信頼しておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

ご案内

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
10:00 ~ 13:00	●*	●	●	×	●	●	●*
14:30 ~ 19:00 (土曜・日曜 18:00まで)	●*	●	●	×	●	●	●*
休診日	木曜・祝祭日 ※第2・4月曜日 ※第1・3・5日曜日						



〒320-0061 栃木県宇都宮市宝木町1-2588-44

TEL 028-650-7150 FAX 028-650-7151

新型コロナウイルス感染症に対する感染対策

☆正しい手指衛生を行きましょう

- <方法> ①手洗いは流水で手を濡らし石けんで泡を立ててから手のひら、手の甲、指の間、親指、爪先、手首を30秒かけて擦り洗います。
②アルコール消毒は最初に爪先をまんべんなく消毒剤が乾燥するまで手全体に擦りこむ。

<タイミング> 帰宅時、食事の前、咳やくしゃみが手に付いた時、手が汚れた時など



☆正しくマスクを着用しましょう

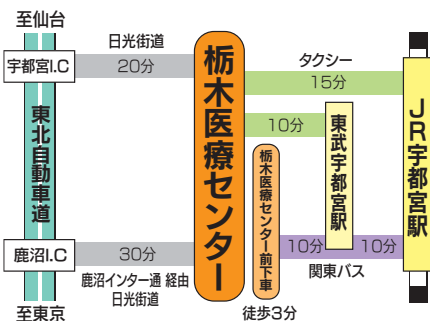
- <着け方> 顔とマスクの隙間がないように、鼻、頬、顎に合わせて鼻、口を覆う。
<装着中> マスクの表面にはなるべく触れないようにする。
会話をするときにはマスクを外さない。
<外し方> ゴムの部分を持って耳から外し、マスク本体に触れないように捨てる。



☆3密を避けましょう

- ①換気の悪い密閉空間 ②多数が集まる密集場所 ③間近で会話や発声をする密接場面
☆流行地域への不要不急の移動は避けましょう
☆体調が悪い場合は、仕事お休みましょう
☆ワクチンを接種後も基本的な感染防止対策の徹底を行きましょう

交通のご案内



発行人

独立行政法人国立病院機構
栃木医療センター
院長 田村 明彦

〒320-8580
栃木県宇都宮市中戸祭1-10-37
TEL. 028-622-5241
FAX. 028-625-2718
URL. <https://tochigi.hosp.go.jp/>

